

17号の クリエイターは どんな人？



今回の表紙はえらい斬新で、なんや雑誌の写真みたいやなあ。
デザインは「シン」中原新覚さんちゅう人なんやて。
ちょっと話聞いてみまひよ。



■はたら子/2013年～
CD/中脇健児
AD&D/中原新覚
CW/山中貴裕



■シアターコミュニケーションラボ大阪/2013年
CD&AD&D/中原新覚
CW/窪田倫明
P/興山満宇



シン（中原新覚 / なかはらよしさだ）さん
1980年生まれ。広告制作会社などを経て、2012年
シン設立。シン＝“芯”をつくるという意味。芯をついた
新しいデザインを信念をもって世の中へ送り出す。
シンプルですが、それが「シン」の仕事と考えます。
インパクト、メッセージが強いものが得意です。

enocoの地下1Fスペースはリニューアル準備中！あたらしいカフェが夏頃オープンする予定です。乞うご期待！

enokojima creates osaka
enoco

大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]
Enokojima Art, Culture and Creative Center, Osaka
Prefecture

アートやデザインの創造力で、都市を元気にすることを目指し2012年4月にオープン。展示
室や多目的室のレンタル事業を行うほか、企画展や公演、セミナー・ワークショップなどを
開催し、クリエイティブな人や情報が行き交うプラットフォームとなることを目指しています。

〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1番34号

開館時間：10:00～21:00(ただし展示室は催しによりオープン時間が異なります)

月曜・年末年始休館

電 話 06-6441-8050 | FAX:06-6441-8151

メー ル art@enokojima-art.jp

www.enokojima-art.jp

enocoニュースレター 17 2018年5月発行

| 発行 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター

| 編集 | 高坂玲子、吉原和音(enoco 企画部門)

| 表紙・特集ページデザイン | シン

| 表紙・特集ページ撮影 | 寺田智也

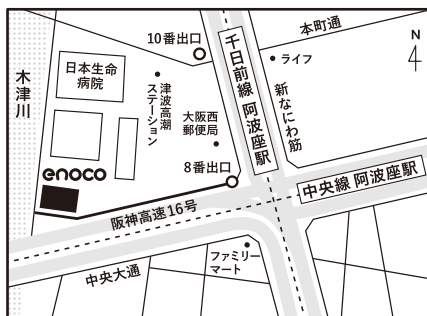
| 表紙コピーライティング | 窪田倫明

| イラスト(エノケン、似顔絵) | タダユキヒロ

| アートディレクション | 後藤哲也(OOO Projects)

| デザイン | 小池一馬(OOO Projects)

「enocoニュースレター」は、enocoが年3回発行する情報誌。
enocoで起きていることや、enocoにかかわる人々が日々考えていることをお伝えしていきます。



【アクセス】
地下鉄(Osaka Metro)千日前線・中央線「阿波座駅」
下車、8番出口から西へ約150m。徒歩約3分。



学
び
は
、
自
分
の
栄
養
だ
。

enoco17 学びの場づくり —あたらしい《enocoの学校》—

江之子島文化芸術創造センター/enocoがお送りする「enoco ニュースレター」。
表紙と巻頭は、毎月異なる関西のクリエイターたちが担当します。
17号の特集では「学び」。enoco は今年度「学び」のプログラムを再始動させます。
これまでの教育・育成プログラム《enocoの学校》を振り返り、新たな展開をご紹介します。
学びは様々なことを自分の中に取り入れ、自分ごとにしていき、自分を成長させる栄養剤のようなもの。例えばこの表紙のように…。

17号の表紙/デザイン：シン

www.enokojima-art.jp

これまでの《enocoの学校》

2013年度から5年(5期)に渡って開講してきた《enocoの学校》は、
既成概念にとらわれない自由で柔軟、かつ創造性豊かな発想や思考を学び、社会課題に取り組む人を育てるプログラムです。
関西内外から多彩な講師陣を迎えての講義・ワークショップのほか、フィールドワークや受講生間での自主ワークショップを重ねながら、
受講生がチームを作り約半年間でチームごとの企画を練り上げ、一般公開のプレゼンテーションまでを行う一連の講義シリーズです。
毎年少しずつ講義の内容やテーマを微修正しながら実施してきました。まずは第1期～第5期を振り返ります。

2013

第1期「Be Creative コース」
期間：2013/9/13 ～ 2014/3/21 (全20回) _ 受講生数：17名
「大阪を変える」をテーマとしスタートした第1期。
3チームに分かれて最終プレゼン(テーマ「光と水の国際都市・大阪の活性化計画」)に向けて企画立案を進めていきました。
受講生は「大阪をもっと元気にしたい」「大阪が好きだけど課題もたくさんある」という思いを持った人たちが多数。
受講生も事務局(enoco)も手さぐりでしたが、ここから2期生以降の活動をサポートするメンバーや、
職場で学びを生かして活躍する方、その後enocoと行政をつなぐ窓口になってくれる方が出てくるなど、頼もしい第1期生でした。



2014

第2期「Be Creative コース」
期間：2014/8/29 ～ 2015/3/28 (全20回) _ 受講生数：22名
「大阪の未来を考える」をテーマに、大阪が抱える社会課題を丁寧に掘り下げることからスタートした第2期。
3チームに分かれ、課題の抽出から企画の立案まで取り組みました。この時からチーム名をつけるのが定番化。
フィールドワークの授業もスタートしました。ドリームプランではなく実現可能なアイデアを提案しようと意識したこともあり、
「おせっかいLab.」という、“洗練されたおせっかいで困っている外国人観光客などを助ける”という企画が生まれ、
そこから有志メンバーによる「大阪おせっかい研究所」が立ち上がり、現在も活動継続中です。



2015

第3期「ソーシャルデザイン入門コース」
期間：2015年8月1日 ～ 2016年3月19日 (全20回) _ 受講生数：14名
「ソーシャルデザイン入門コース」と看板をより具体化。
「創造的思考で未来を変える」をテーマに、2期に引き続き大阪における社会課題の掘り下げからスタート。
受講生数は少ないながらも、クリエイターや行政職員など、多様な現場で活動する人たちが集まり、
それぞれが考える課題の共有から、活発な議論がなされました。1期、2期の卒業生有志もサポートに入り、《enocoの学校》卒業生の
ゆるやかなネットワーク化も進み、学校や職場とは違ったサードプレイスとしての「学校」という側面が強まってきた3期です。



2016

第4期「ソーシャルデザイン入門コース」
期間：2016年7月8日 ～ 2017年3月4日 (全21回) _ 受講生数：25名
「素敵な未来から、今できることを考える」をテーマに、
大阪の課題を掘り下げ、未来に向けての企画立案を進めていきました。
より多様な世代が集まることを目指して、年齢制限をそれまでの40歳から50歳に引きあげたことにより、過去最多の受講人数となりました。
チームビルディングや課題の共有・抽出のプロセスも大きな課題となりましたが、
受講期間中から、受講生同士、「学校」以外でのそれぞれの活動(本業)の場での交流や情報交換などが活発に行われていました。



2017

第5期「ソーシャルデザイン入門コース」
期間：2017年8月5日 ～ 2018年3月24日 (全15回 / 選択制の特別講義+フィールドワーク+全5回のゼミナール) _ 受講生数：14名
初の合宿を導入し、いきなりオリエンテーションで城崎国際アートセンターへ。
また、選択制による一般公開の特別講義と卒業生を交えたゼミナールを開講し、学びを深めるという形式にリニューアル。
ゼミナールは実践的なプログラムとして、アイデアの解像度を上げる思考法と会議をデザインするファシリテーション法を学びました。
各期をまたいだFacebookグループが立ち上がり、
卒業生と現役生の交流もより活発になり、自主的な勉強会や集まりも開催されるなどしました。



技術の進歩によって、平均寿命が伸び人生の時間が長くなるとともに、

多様な働きかた・生きかたが可能となってきました。

また情報が世界を飛び交い、

社会の変化のスピードが速まっている中で、

自分や社会の未来を見つめ、

考えるために「学び」を求める人が増えてきているように思います。

enocoでもこれまで5年間に渡り、

《enocoの学校》という講義シリーズを開催してきましたが、

今年度から《enocoの学校》を従来の講義シリーズだけではない、

幅広い学びのプログラムとしてリニューアル・再スタートさせます。

今回はこれまでの《enocoの学校》を振り返りながら、

これからの《enocoの学校》を考えます。

2017年度の「えのこゼミナール」で講師を務めた中脇健児さん(場とコトLAB代表)に半年の学びを振り返っていただきました。

受講生の皆さんはそれぞれ個性が強いので、一つの物事を進めていこうとすると、どうしても衝突が起こります。
普段の職場だったらそれをやり過ごすこともあると思うけれど、ここでそうしては何も生まれて来ないので、衝突しながらもなんとか1つの物事を訪いでいたことが印象的でした。
その状況こそ非常にプロジェクトっぽく《enocoの学校》の目指すべき姿だなと思いました。
異なる価値観を持った人と合意形成を図りながらやる持久力、対話の体力はかなりついたのでは。
また、ソーシャルデザインや地域の課題解決ということで、最初は漠然とした課題を設定するんですが、次第に、自分の暮らしの中にあるモヤモヤから出発できるようになりました。
まだ形になっていないことからの問いの設定とそれに対する手触りの感覚・方法もレベルがあがったと思います。

中脇健児(場とコトLAB代表)

“その場にいる人とその場だからできるコトを考える”をモットーに、
地域と連携して手がけた「伊丹オートラク」「鳴く虫と郷町」は、いずれも街ぐるみの規模となり、10年以上続く。
「遊び心」をキーワードに、アート、コミュニティプログラム、地場産業支援、教育、ワークショップなど活動は多岐に渡る。



1期～5期まで100名近くの卒業生を輩出してきた

《enocoの学校》は、

以下のようなことを大事にしてきました。

学びの方法をミックス	講義だけでなく、フィールドワーク、ワークショップ、チームでの演習、選択制のゼミナールなど学習方法を組み合わせて学びを求めました。
夜学	講義終了後に打ち上げを実施し、フラットに話ができる場を設け、ゲスト講師との縁をつないたり、受講生同士が本音で話ができるようにしました。
卒業生を大事にしてネットワーク化	卒業生にはサポート役として授業に関わってもらったり、卒業後の自主的な活動をenocoがサポートしたり、卒業後も関係を維持し卒業生のネットワークが自然とゆるやかに広がるようにしました。

□事例紹介「グリーンズの学校」

「greenz.jp」というウェブマガジンを運営する

NPO法人グリーンズが2011年から始めた学びと実践の場「グリーンズの学校」。

これからの《enocoの学校》を考えるにあたり、

事務局プロジェクトマネージャーの河野奈保子さんにお話を伺いました。

——「グリーンズの学校」ではこういった学びを展開しているのですか？

ウェブマガジンは2006年から様々な事例を紹介してきたのですが、東日本大震災が起こり、暮らしだったり身の回りから社会を良くしていきたいという人たちが読者として増えてきたことで、アクションと一緒に考えたり、小さくてもアクションしていく場をつくろうということで始まりました。「学ぶ」「つくる」「考える」という3つのテーマで開講していますが、始めた当初は「ソーシャルデザイン」という大きなテーマを設定していたところ、最近はマイプロジェクトが細分化してきてクラスも増えています。例えば、「どうしたらあたたかい家を作ることができるか」というDIY・セルフリノベーションを建築家からワークショップ形式で学んでいくクラスなど。冬の家の中での死因の原因にヒートショックが多いこともあり、家をあたたかくするというのはみんなが幸せになる第一歩だということを建築の専門の人たちが伝えていくクラスです。

——講師の方も、本業というか社会的な仕事で培ったスキルや価値観を、個人的にあるいは違うところでシェアしているんですね。

受講生側にも、いい意味でのハブニングが起こります。学びの場って自分が気づいてなかった自分の役割や興味関心というのを引き出されざるを得ないと思うんです。自分自身ではリーダー向きだと思っていたら、実は裏方的な存在だったということに気づくとか。それに自分はずえこの学びを必要としているかという問いを講師が徹底的に投げかけるんですよね。それを受け取る側も素直になるのがとても大事で、最初にクラスが始まる時に「自分を主語に語ろう」とか「肩書きは関係ない」「自分から動かないと何も得られない」とよく言いますね。より楽しく、みんなが参加できる方法で、個々が持っている魅力や役割を活かしながら、どうやって社会を良くしていくかというのを大事にしたいと考えています。

——運営はどうされていますか？

事務局は2人と少人数ですが、各クラスにコーディネーターがいて、スケジュール調整と当日の進行、受講生のケアなどをしています。新しいクラスを立ち上げる時に講師とセットでコーディネーターも考えます。コーディネーター同士の横のつながりをつくるための勉強会もしています。彼らが「グリーンズの学校」のキーパーソンだと思います。

——《enocoの学校》も運営や卒業生の出口の設計が課題なので参考にさせていただきます！



河野奈保子（グリーンズの学校事務局プロジェクトマネージャー）

1980年千葉原生まれ。武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒。大学研究室・NPO勤務後、2015年よりグリーンズのスクール事業の事務局／企業・行政との協同案件のプロジェクトマネージャーを担当。人が学んだり、何かをつくっているときの横顔が、世界で一番美しいと思っています。美しい顔でいられる場をつくり続けたい。「グリーンズの学校」school.greenz.jp「greenz.jp」greenz.jp

2018年度《enocoの学校》はリニューアルして9月に開講します！

- これまででは1つのプログラムとして実施してきた《enocoの学校》。enocoがこれから「教育・学び」を一つの柱として活動していくにあたり、《enocoの学校》をリニューアルし、従来のプログラムに加え、新たな学びのプログラムをつくります。具体的には「教育・学び」のプログラム全体を《enocoの学校》とし、これまでの《enocoの学校》はその1プログラムとして「コモンズコーディネーターコース（仮）」にリニューアル。そのほかにもこどものためのアート教室、多様な世代や多様な関心を持つ人に向けての学びのプログラムを開講します。より多様な世代、多様な興味関心を持つ人々がenocoに集い、enocoが大事にする「Be Creative」の精神をベースに様々な学びとコミュニケーションを深め、あたらしい未来をつくる学び場を目指します。

あたらしい《enocoの学校》	多様な世代が、従来の概念や仕組み・基準に囚われることなくクリエイティブな活動やあたらしい未来に向けてのチャレンジをしていくための学びと実践の場です。
「コモンズコーディネータークラス（仮）」	これまでの《enocoの学校》の後継プログラム。社会あるいは様々なコミュニティの中で媒介者となり、多様な主体をつないでいく担い手を育成する基礎クラスです。ゲストによるレクチャーやフィールドワークのほかワークショップや自習などを通して、「ソーシャルデザイン」「ファシリテーション」「企画立案」「リサーチ・編集」などを学んでいきます。さらに基礎クラスの修了生を対象に学びの解像度をあげていく応用クラスを設置し、それぞれの学びや興味関心をかたちにしていくことを目指していきます。修了後は「enocoサポーター（仮）」としてenocoをフィールドに、あるいはenocoと協働して事業や活動をおこしていくことを想定しています。
〔実施時期・回数など〕基礎クラス：9～11月／応用クラス：12月～3月（予定）	

- 「こどもアート教室」若手アーティストが講師を務める、こどもを対象とした少人数制の美術の教室。楽しみながら美術（絵画・彫刻・版画等）を学び、こどもたちの創造力、多様な生き方への視点を養っていきます。あわせてenocoが管理を行う大阪府の美術コレクションを鑑賞するなど、本物の美術作品に触れる機会もつくっていきます。アーティストがその職能を活かすとともに、こどもたちが多様な大人や表現に出会う場づくりを目指します。

〔実施時期・回数など〕9月から11月程度	
その他のクラス	それぞれの興味関心を社会で活用できるようにするためのスキルアップやネットワークづくりを目指したクラスをいくつか開講します。受講生が学んだことを活かして活動できる機会や場の提供も目指します。テーマ：大阪の建築、緑化・グリーンマネジメント、親子アートワークショップなど
〔実施時期・回数など〕講座によって異なる	

新しい《enocoの学校》は7月にウェブサイトやリーフレットにて詳細を発表します。ご期待ください。



「これから」のイベント情報 coming events

各イベントの詳細・申し込み方法はWebサイトをご覧ください。 www.enokojima-art.jp

2018年度のenoco

enocoも2012年4月の開館から6周年を迎え、無事7年目に突入しました。

今年度もBe Creative! の精神で、幅広い年代の府民の皆さまや、様々なジャンルのクリエイターが豊かな創造力を発揮できる場となるよう、スタッフ一同努力してまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

昨年度より掲げている「ネットワーク」「教育」「プラットフォーム」という軸は変わりませんが、今年度はenocoという施設の「場の活性化」も目指していきます。

これまでenocoの館外に飛び出て、大阪府内の自治体等の課題解決に対し、多様なステークホルダーが同じ土俵の上で議論を重ね、クリエイティブに取り組んでいくための仕組みづくりのサポート(プラットフォーム形成支援事業)などに力を入れてきましたが、そこで培ったノウハウや経験、そしてネットワークをenocoの施設運営にもフィードバックし、府民やクリエイターの主体的な創造活動と交流の機会・場を提供していきます。

ネットワーク

大阪を中心とした文化関係機関や団体との連携を高め、互いに課題を共有しながら、府民やクリエイター・アーティストの活動環境の整備、創造活動の支援のあり方を考え、多様な動きを有機的につなげていきたいと考えています。

教育

これまで5年間にわたって実施してきたソーシャルデザインの講座「enocoの学校」を再編し、より幅広く府民の皆さまにenocoを活用いただけるよう、様々なテーマを設定した講座を開講し、その総体を「enocoの学校」とします。enocoの人脈を活かして魅力的な講師を迎え、多様な学びの場を提供するとともに、学んだ成果を社会に還元していくことのできるような「学校」を目指していきます。(詳細はp5をご覧ください)

プラットフォーム

大阪府と実施している「プラットフォーム形成支援事業」の最終年度。これまでの成果を振り返り、次年度以降の事業の継承についても検討していきます。また、江之子島地区には日本生命病院が5月に開院し、「まちびらき」の時を迎えました。昨年度から、地域住民への周知、参画の拡大に努める「えのこクラブ」というプラットフォームづくりを行なってきましたが、今年度は「えのこクラブ」を軸とした地域活動も本格的にスタートさせます。

そして、B1Fのフリースペースとサンクンガーデン等を様々な人々が集い、活動・交流できるような場として再整備します。



【2018年度の具体的事業】

ネットワーク

- 領域横断型文化フォーラム(「創造のテーブル」)
- クリエイター交流会
- えのこじま凸凹ラジオを活用した情報発信
- 大阪の文化的活動を支える団体・機関との連携

教育

- 「enocoの学校」のリニューアル

プラットフォーム

- enocoのそうだん[eno so done!](相談窓口の設置)
- 「PF形成支援事業」の成果とりまとめ
- 「えのこクラブ」の運営

「大阪府20世紀美術コレクション」の活用

- 大阪府20世紀美術コレクション展(8月/1月を予定)
- 大阪新美術館建設準備室との連携(共催展の開催)
- enocoコレクション・キャラバン(府内の学校への出張展示・対話型鑑賞の実施)

地域との連携

- えのこdeマルシェ(年3回)
- 木津川遊歩空間(トココダンダン)の活用

その他

- 館内スペースのリニューアル
- クリエイティブオフィスの運営
- ニュースレターの発行(年3回)など

えのこdeマルシェvol.12 初夏の古本まつり



イラスト:タダユキヒロ

enocoの玄関前に1日限定のマルシェ(市)が出現する「えのこdeマルシェ」。

毎年恒例のマルシェですが12回目の開催となりました。今回の特集店舗は「古本」です。関西各地や、普段はインターネットでお店をかまえている古本屋が1日限定で大集合。絵本やアートブックを中心に、文庫やマンガや特選本などがそろいます。他にも、製本や陶芸体験など、いろいろなものづくり体験ができるワークショップのお店と、いつも大人気の美味しいごはん屋台もずらりと並びます。さらに今回は、江之子島のまちびらきイベントも同時開催。enocoお隣マーク&フラッグスタジオや日本生命病院で、オーケストラ・コンサートやワークショップなども開催されます。6月最初の土曜日はenocoにおでかけ間違いなし!

日時 2018年6月2日(土)11:00~17:00

場所 enoco屋外駐車場他、入場無料(雨天時は屋内で開催)

出店店舗

[本] ON THE BOOKS、SUS〜くらしと本のみせ スウス〜、大吉堂、寸心堂書店、九龍堂、居留守文庫 二宮古書部、(本)ぼんぼんぼん ホホホ座交野市店、積ん読屋 [ごはんと雑貨] El calavera、西淡路希望の家とFUYUNIRE、African gazelle、グローブマウンテンコーヒー、ウステパン、atelier curieux、ニコノパン、LE CORON by 花雷、木村耕太郎、Ayumi!、COZY Coffee Spot、手包み餃子と中華キッチンひげ、あすかマルシェ、カイロブラクティック伽羅

[ワークショップ] F&mpottery、アトリエスタkids、ミニFM えのこじま凸凹ラジオの公開生放送、「店・街・環境を創造する商空間創造企業」株式会社スペース、ふさこの手作り製本教室、はなぶん移動花摘みガーデン、他

※次回のマルシェは2018年8月25日(土)に開催予定です。

主催・問合せ先 江之子島文化芸術創造センター[enoco]

企画協力 ON THE BOOKS

“あなたの夢をかなえます”豊能町で公募しています! トヨノドリーム



市町村等の課題解決をサポートするプラットフォーム形成支援事業では、昨年度に引き続き今年度も「豊能町シティプロモーション」の支援を実施していきます。今年度の取り組みの1つとして、豊能町を愛する方々(豊能町民以外の方も応募できます)から豊能町の魅力向上や新たな魅力創造に繋がる新しい夢やチャレンジ(トヨノドリーム)を募集し、実現するプロジェクトを実施しています。皆さんから集まった提案は書類審査、公開プレゼンテーションを通して審査を行い、採択された案は、夢やチャレンジの実現に向けて、助成金を提供する従来型のものではなく、企画運営のアドバイスや仲間づくり、情報発信などそれぞれの提案にあった形で支援が受けられます。

募集項目

自由 提案枠	空き家等の 多目的 利活用枠	女性活躍の 舞台となる マルシェ枠	図書館活用 による 地域活性化枠
-----------	----------------------	-------------------------	------------------------

ー

スケジュール

- ・5月30日(水)提案書提出締め切り
- ・6月5日(火)書類選考結果通知
- ・6月16日(土)公開プレゼン・審査

審査員

石村由起子(くるみの木主宰/空間コーディネーター)、甲賀雅章(enoco館長)、忽那裕樹(enocoプラットフォーム部門チーフディレクター/E-DESIGN代表)

エキシビジョンカレンダー 2018年5月 - 9月 exhibition calendar

月	会期	時間	展覧会名	ルーム
5	1(火) - 6(日)	11-19(日曜11-13:30)	NEXTA'18	[ルーム1,3,4]
	1(火) - 6(日)	10-20(日曜10-16)	足立あゆみ『breath 呼吸』	[ルーム2]
	8(火) - 13(日)	11-18(日曜10-15)	AVA Art Festival	[ルーム1]
	8(火) - 13(日)	11-18(日曜11-16)	第3回 府友会写真展	[ルーム3]
	15(火) - 20(日)	11-19(日曜11-15)	第23回 アートムーブコンクール展 / 水都の風II	[ルーム1,2,3,4]
	22(火) - 27(日)	11-19(日曜11-16)	京都造形芸術大学 通信教育部 第7回 大阪クラブ絵画展	[ルーム1,2,3]
	22(火) - 27(日)	10-20(日曜10-16)	第17回 2018 関西一創会展	[ルーム4]
	29(火) - 6/3(日)	11-18(日曜11-16)	Tsukushi season2-2	[ルーム4(B)]
6	5(土) - 10(日)	11-19(日曜11-16)	FOUR展	[ルーム1]
	12(火) - 17(日)	10-18(日曜10-16)	第26回 関西水彩画会会員展	[ルーム1]
	12(火) - 17(日)	10-19(日曜10-16)	第89回 浪展	[ルーム4]
	19(火) - 24(日)	10-20(日曜10-16)	Be Yourself - 國井隆児写真展 -	[ルーム3]
7	17(火) - 22(日)	11-17(日曜11-16)	第47回 大阪二紀展	[ルーム1]
	31(火) - 8/5(日)	11-19(日曜11-16)	第34回全労済「子ども絵画コンクール」・ 第6回全労済「子ども写生大会」作品展 展示会	[ルーム1]
8	10(火) - 26(日)※月休	11-19	enocoおしゃべり美術館	[ルーム4]
9	18(火) - 23(日)	11-18(日曜11-16)	吉田脩二 井上和雄 それぞれの個展	[ルーム1]
	25(火) - 30(日)	未定	新槐樹社 大阪支部展 絵画展	[ルーム1]

くわしくはWebサイトをご覧ください www.enokojima-art.jp

PICK UP

enocoおしゃべり美術館

今年の夏はenocoにちょっと変わった「美術館」がオープンします！

その名も「enocoおしゃべり美術館」。美術館なのにおしゃべり？そんなことして怒られたりしない？いやいや、ぜひ作品について、みんなでおしゃべりしましょう！作品をじっくりみて、一緒に鑑賞している人たちと作品についておしゃべりすると、ひとりで見るとは一味違った鑑賞体験になりますよ。また、普段は美術館になかなか行けない、、、と思っているちびっこたち(と保護者のかたたち)も大歓迎です。会期中の週末には、ナビゲーターによる対話型鑑賞イベントを実施します。みなさんでぜひ遊びにきてください。

※会期中の土日にイベント開催予定。詳細は7月ごろenocoのwebサイトに掲載予定。



会 期 | 2018年8月4日(土)～26日(日)
時 間 | 11:00～19:00
休館日 | 月曜日
料 金 | 無料

レビュー review

アーティスト・サポート・プログラム

enoco[study?]#5

前川 紘士

(2017年12月14日～2018年3月31日)

公立文化施設のアーティスト・サポート・プログラム成果発表として、展覧会でもなくパフォーマンスでもなく、アーティスト自身がその思考実験の結果を口頭で解説するというコロキアム形式のものは、あまり前例がないだろう。今回、前川紘士が参加したenoco[study]#5はまさに、その形式で最終成果が提示されたリサーチ・プログラムであった。

12月に始動した際に、まず前川は、過去10年間の自身の作品やプロジェクトに関する膨大な資料をenocoに持ち込んだ。それらは、ポートフォリオや作品群、年表や文献等で構成されており、彼が拠点とするenoco内のルーム9は、すぐさま、あらゆるドキュメントが山積する「アトリエ＝資料室」と化した。その後、それらの資料を並置し、整理、比較することで次なる6つの「ヒアリング」対象を設定。その中には、大阪府文化課の職員、芸術教室の主宰者、中学校の美術教員等が含まれていた。そして滞在期間の終盤に、これら過去資料と追加リサーチの成果と今後の構想をまとめた『works(=)documents』の編集に着手したのである。

つまるところ、クモの巣上の思考マップに描きだされた彼の関心事項は3つの領域、＜非専門家の表現＞＜美術教育＞そして＜記録の残し方＞、に集約されていったように推察する。それらはいずれも、芸術家としての強い主体性のもとに作り出され、保管されるものではなく、放っておいたら廃品回収に出されてしまう(作った本人もそれを拒まない)ような些細な表現への関心のようでもあった。保管されるものとされないもの、インサイダーとアウトサイダー、大人と子ども、そういったある種二項対立的になりがちな両者のあいだを器用に行き来する作家にみえるが、本人曰く「複数の状況間疲れ」を引き起こすこともあるという。その時に、一端立ち戻る場所のひとつが「美術」であり、異なる関心とできるだけうまく付き合うために選びとっている役割の一つが「アーティスト」である、と前川は語る。

このドキュメントはまだ半分以上が空白で、今回のプログラム終了後も引き続き更新されていく。enocoはそれとどう付き合っていくのか？ 新たな問いかけを生む契機となった。

小林 瑠音

神戸大学国際文化学研究推進センター学術研究員。専門は英国文化政策、コミュニティ・アート史。2015年度まで應典院アートディレクターを務める。主な企画展に、木村幸恵展「Crystal Canopy」(2012)、前谷康太郎展「samsaara(輪廻転生)」(2013)、mizutama写真展「wearは食べない」(2013)、hyslom展「大家さんの伝書鳩」(2014)、武田力展「そらには やんわり うかんでる」(2016)等。



[アトリエ＝資料室]



リサーチ内容・状況を共有するために資料が配置された最終報告会会場



配布・展示資料の思考マップ

< Photo : 麥生田兵吾 >



「これまで」のイベント情報 past events

創造のテーブル2018

新しいパブリックをめぐるcommons・芸術・教育・コミュニケーションの対話 2018年3月17日

各ジャンルで活躍するキーパーソン4名を招き、丸いテーブルを囲んで対話を重ねる「創造のテーブル」が今年も開催されました。まず大阪市の北区区長の上野信子氏からは、区役所をはじめ公共空間を区民に開放しつつ、子どもの人口が急増するなかで本物のアーティストに触れる機会を設ける取り組みが紹介され、京都に新しく小劇場を設立すべく奔走する劇作家で演出家のあごうさとし氏からは、京都の舞台芸術の危機的状況に抗し、自ら創造していく劇場が地域とつながっていくことの重要性が語られました。また人気ウェブマガジンgreenz.jpの教育部門を担当する河野奈保子氏は、「ほしい未来は、つくる」を合い言葉に、単なる学びで終わらない、ネクストアクションにつながるユニークな教育プログラムの数々とそのニーズの高さが紹介されました。皆さん異なる立場ながら、揃って市民をそれぞれのフィールドにつなぐコーディネーターの役割と、その育成を重視していたことが印象に残りました。またIT関連企業を経営する山本敬介氏からは、人と地域とつながる各種テクノロジーが具体的に紹介されました。最後は登壇者全員によるパネルディスカッションとなり、日常に溶け込むアートとその評価の仕方について、またこれからの新しい公共では、消費ではない市民と社会との関わり方が重要になってくることなどが議論されました。

高岡伸一／enoco企画部門



enocoコレクション・キャラバン2017

2018年1月25日、26日@千早赤阪村立千早小吹台小学校／2月7日@大阪市立苗代小学校／2月8日@箕面市立萱野小学校

2016年度からスタートした新しいコレクション活用事業「enocoコレクション・キャラバン」。2017年度は大阪府内の小学校3校で実施しました。授業始めはいつもの授業とは違った雰囲気に緊張した顔をしていた子たちもいましたが、それ以上に、教室内に展示している作品を早く近くでみたい!といった顔で、うずうずしている様子でした。はじめに、スタッフの自己紹介、enocoについて、作品鑑賞時の注意事項と対話型鑑賞のポイントを伝えたらさっそく自由鑑賞タイム。気になる作品をじっくり間近でみながら他の人と話をしていきます。5分間の自由鑑賞の後、対話型鑑賞がスタート!1つの作品を全員ですみずみまで鑑賞します。じっくりみた後に、作品をみて見つけたこと、感じたこと、考えたことを共有していきます。アート・キャラバンで実施した対話型鑑賞では、作品名やその作品の時代背景、技法など、作品についての情報はいっさい伝えることなく行います。子供たちから発される言葉は「正解」探しではなく、ひとりひとりが自分で作品からみつけた言葉たちです。それを、対話をすることで他者と共有し、また気づきを増やしていきます。キャラバンは今年度も引き続き実施予定です。今後も子どもたちとコレクションとの新しい出会いがとっても楽しみな事業です。

高橋真理子／enoco企画部門



Osaka Creative Forum2017

「まちを再生する新たなシナリオづくり」

2018年2月16日

enocoと大阪府が協働実施する「プラットフォーム形成支援事業」の成果を共有し、国内外の先進事例を紹介するフォーラムを実施しました。5回目となる今回は、5名のパネラーによる事例紹介とクロストークを繰り広げました。アーティストの西野達氏からは、シンガポールのマールイオン像を取り囲んでホテル化した「The Merlion Hotel」など、国内外の公共空間を斬新に活用したプロジェクトについて紹介頂き、建築家の太田浩史氏からは、世界の都市再生の主だった事例紹介と、環境や経済に加え社会的な要素が都市再生にとって重要になっている点や、欧州文化首都の考え方・事例等について解題いただきました。広場ニストの山下裕子氏からは、全国の街中の広場づくりに関わってこられた経験を元に、「富山グランドブラザ」をいかに市民に愛され活用される空間へと変貌させたかについてお話し頂き、タクティカル・アーバニスト泉山皇威氏からは、戦略ばかり考えてきた都市計画に対し、アクションから始めて変化を起こしていく最新の取り組みや都市のビジョンのあり方の変化についてお話をいただきました。そして、enocoディレクター忽那は、市民の活動を結集した水都大阪の取り組みや、旧草津川を市民活動の環境の器となる公園にした「草津跡地公園」について紹介しました。後半のディスカッションでは、欧米では皆歩くのが大好きで、それを都市の魅力につなげるソフトとハードが戦略的に計画・実現されていること、逆に日本の地方都市では車移動が主となり、“歩く喜び”や都市の魅力を失っていること、従って人が歩くための戦略をうち、それを実現するための中間支援組織のあり方や戦術的に実行するアクション、行政の縦割りを超えたプロジェクト化の必要性、都市を評価する指標に“社会的効果”を組み込む意味などについて議論が交わされました。最後に「立場や価値観が違う者が共存するためのシナリオづくりにチャレンジする実験、アクションが必要。まずは今すぐできることをやってみよう!」という決意を会場の皆さんと共有し、幕を閉じました。

石塚育代／enocoプラットフォーム部門





enocoのひとびと people



新しくenocoに加わりました河崎です。その昔、お隣の港区にあった美術館に長年勤め港区に住み、enoco近くの川口基督教会へ通っていました。そんなご縁のある、また歴史ある江之子島で、創造力でもってOSAKAを元気にする仕事が出来ると喜びを感じている今日この頃です。よろしく願いいたします！(企画部門 河崎由香子)



2018年3月末をもって、enocoのスタッフから退くことになりました。開設の準備から6年半の間に、デザイナー、アーティスト、行政の方など、ユニークでクリエイティブで魅力的な、たくさんの方との出会いがありました。そのつながりが今の私の大きな財産になっています。本当にありがとうございました！

4月からは、近畿大学の建築学部研究室を構えました。近大は今とても勢いがあって面白くなりそうです。立場は変わっても、これからも大阪をユニークでクリエイティブで魅力的な街にしていこうとスタンスは変わりません。今後も引き続き、enocoともどもどうぞお付き合い下さい。宜しくお願いします！(企画部門 高岡伸一)

enocolumn 16

今、参加型がアツい！
人と場の関係性の変化について

お店とお客、もしくはアーティストと観客でも良いんですが、提供側と享受側の関係性が近年変わってきているなど感じています。老舗の個人商店の閉店が続く中、フリーマーケットや手作り市などは出店する人で賑わっている様子を目にしますし、エンターテインメント分野でも劇場や映画館が集客減に苦しむ一方で、脱出ゲームなど参加型のイベントが大盛況です。インターネットの普及で情報が溢れかえる中、自分が元々探していたもの以外に偶然出会うということが少なくなったように思います。そうなると徐々に、閉塞感と言うか「もうどれを見ても面白くない。飽きたよ」という気持ちになってくるんですよ。それが「ただ座って提供を受けただけじゃなく、自分も何かやってみたい!」という欲求に繋がっているんじゃないかなと。僕は去年の秋から個人的に、阿倍野区にオープン

した日替わり店主の古本屋『みつばち古書部』に出店しはじめました。ここには古書店をされている人から、趣味的にフリマに出店している人まで、僕も含め、ただ本を買う・読むだけではなく、もうちょっと何かしたいという本好きが集まっているんです。こういう参加型の取組みが増えて行くことで、それぞれのジャンルの場がつくられ、自然に人が集まる環境ができあがっていくのではないかと思います。やっぱり楽しんでやれることが一番ですからね(笑)さて、今年の夏はenocoも会場の1つとして、体験型講座の見本市「ワークショップフェスティバル-DOORS-」を開催します。90分500円均一で100種類以上の講座が開講しますので、何か一つでもやってみたいことを見つければ来てもらえれば嬉しいです。

重田 龍佑

大阪市立芸術創造館 館長／ARTCOMPLEX GROUP ディレクター
1978年京都生まれ。「アートを切口に新しい価値観を創造する」をテーマに、ARTCOMPLEXグループのディレクターとして数多くのアートイベントのディレクションを務める。舞台監督・舞台美術・照明などで多くの劇団やダンスカンパニーに携わった経験を活かし、複数の劇場・文化施設の運営や企画製作、若手アーティストの支援・育成や民間・公共劇場間の連携など、文化芸術を取り巻く環境づくりにも積極的に取り組んでいる。

モノ好き館長 甲賀雅章の 四方山話。

Vol.2

え〜っ？
イヤホンケーブルを
さす穴がない！

「Plantronics社の
BackBeat FIT」

ハッキリ言って、僕は「モノ好き」である。まだ数寄者の域には達していないが。変わった? いや、僕にとっては魅力的な物、者、ものを紹介していきたいと思う。

僕は10年以上にわたり、Bang&Olufsenの「Earphones」を使っていた。

僕にとって、世界のデザインBest10に入るものだ。「優れたものは、結果、機能的で美しい。そして、ずっと使い続けたくなるものだ。」この「Earphones」を使っていると、デザインが表層のものではなく、人々が豊かな生活を営む上で直面する様々な課題を解決する有効な思考手段であることが実感できる。この、イヤホンが使えなくなるなんて。もちろん、コネクタコードを使えばいい話だが、僕の大好きなデザインカンパニー「Apple」からの次の提案がコードレス。僕の心は揺らいだ。

しかし、僕は、意外とあっさりと思いついた。お相手はPlantronics



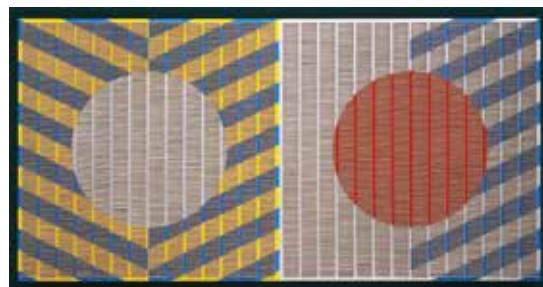
社のBackBeat FIT。これまた秀逸のデザインである。まずは外れにくい。僕はダンスを踊る時にも装着するが、外れることはない。そして、いやな振動音が全く伝わってこない。かと言って、全く外部の音を遮断してしまうわけではなく、運動時の安全性にも配慮されている。コードがないことはこんなに快適なのか。それを知らされたグッドデザイン。音も申し分ない。勿論ヘッドセットの代わりにもなる。

月面を歩いたNeil Armstrong(ニール・アームストロング)の有名な言葉「That's one small step for man, one giant leap for mankind」(人類の小さな第一歩だが、人類にとっては大きな飛躍だ)は、Plantronicsのヘッドセットを通して伝えられたものだ。

大阪府 20世紀美術コレクション

この一点!

1974年から2007年にかけて大阪府が収集した「大阪府20世紀美術コレクション」。
総数およそ7900点の中から、enocoスタッフの
おすすめ作品を毎号1点ずつご紹介します。



「作品」

森口 宏一 (1930-2011)
1964年 / 100cm × 200cm
フタル酸樹脂塗料・ラッカー・アルミニウム板

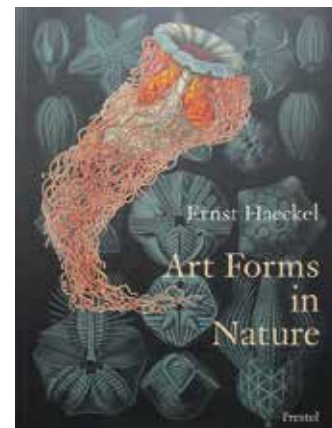
今回は森口宏一氏の作品《作品》を紹介します。アルミニウム、ステンレス、スチールといった近代的な工業素材を用いて、幾何学的構造による作品を制作している彫刻家、森口宏一の作品は府のコレクションとして167点所蔵されています。今回ご紹介する作品は、1962年現代抽象作家集団「テムボ」を結成し、アルミニウム板を使ったレリーフ状の作品を次々と発表し始めた頃の一つで、計算され理的につくられた作品です。また森口氏は、1960年代にポリエステルやクロームメッキ、ステンレス、ハーフミラー、蛍光灯などを使った作品を発表し、新世代を代表する現代美術の作家としての評価を得ました。前職で軽鉄、鉄骨を扱っていた者としては、鉄に親しみはありますが、それを作品として扱う思考が全くなかったのも、初めて見たときの斬新さが心に残っています。実物は細かなアルミニウム板が多数並んでいて、作品を扱う時に外れてしまうのではないかとと思うほど繊細です。とても細かな計算の上で作業されており、私にはまねできないと圧倒された作品です。

石川 英樹

enoco担当マネージャー

オン☆ザ☆レビュー

enoco地下1階の古書店、ON THE BOOKS
米田店長によるブックレビュー。アートブック・写真集・デザイン・建築・ファッションからマンガ・音楽・映画・オカルトまで、多彩なラインナップの中から、今の気分をあらわす1冊をご紹介します。



Art Forms in Nature Ernst Haeckel

ドイツの生物学者エルンスト・ヘッケルの細密画集です。自然界に生息する植物や動物、微生物をありのままに描写しています。表紙の写真でも分かる通り、見た目の不気味さ、正義が悪かで言ったら100%悪の禍々しさ、それでいて絶妙なバランスでシンメトリーを構造する美しさ・・・どんな奇跡か偶然で、こんなにトリッキーな生物が誕生したのか見当もつきません。そう、これはエイリアンです。「地球には宇宙人がたくさん潜んでいる?!」というオカルト話も、この本を読むとあながち間違っていないと思わせてくれます。

ON THE BOOKS

営業時間: 11:00-20:00(月曜日定休)
掲載の書籍は店頭・オンラインストアで
販売中 www.on-the-books.info

米田 雅明

ON THE BOOKS 店長



地域情報 ページ area info

このページは、enocoのまわりで活動するみなさんに活動を紹介してもらうページです。
今回は日本生命病院のホスピタルアートなどで江之子島のまちづくりに関わってきた近畿大学文化デザイン学科の学生さんに、フラッグスタジオでの取り組みについて紹介してもらいました。
今号の担当者：
「近畿大学文化デザイン学科の学生」さん

INDAI
ESIGN LAB
文化デザイン学科 | 近大デザインラボ

FLAGスタジオ × 近大文化デザイン

enocoのおとなりのFLAGスタジオでは、わたしたち近畿大学文化デザイン学科の学生がNO ARCHITECTSさんと一緒に、ものづくりのための場づくりに取り組んでいます。



チウニ班



ロコ班



看板班
(3年生は欠席)



5月には辺口芳典さんとの本づくりワークショップ、6月には北浦和也さんとの本づくりワークショップを行います。



enocoのある大阪市西区江之子島では、アートやデザインのちからで、くらしをより楽しむための文化活動「DECOBOCO(デコボコ)」が行われています。

www.enokojima.info

まちびらきイベント 「えのこじまグルグル」



文化施設(enoco)→マンション→病院がオープンして、江之子島のまちがついに完成します。完成を記念して、文化と医療と暮らしがミックスした新しい「島」、江之子島をめぐる、まちびらきイベントを開催します。
enocoでは本と雑貨と美味しいご飯が出店するマルシェ、マンションの1階にあるマークスタジオとフラッグスタジオ、日本生命病院の工房ではこどもも楽しめるワークショップを行います。日本生命病院のホールではオープニングセレモニーとオーケストラによるコンサート、日本生命病院コリドーや公開空地などではホスピタルクラウンたちがパフォーマンスを行い江之子島のまちびらきを祝います。さらに、津浪・高潮ステーションでは防災知識を学ぶツアーを、江之子島のまちから川沿いにすこし南に行ったところにある、木津川遊歩空間トコトコダンダンでは好きなものや好きなことを持参するみんなのピクニックを開催。
この機会に新しい「島」、江之子島を「グルグル」とめぐってみてください。
—
日時:6月2日(土)10:00-17:00
※各イベントの開催時間や内容など詳細はウェブサイトをご覧ください
<http://enokojima.info/event/2029>

共同制作実験 「三つの体、約百八十兆の細胞」



「三つの体、約百八十兆の細胞」とは早川祐太、高石晃、加納俊輔の3人のアーティストによる共同制作実験です。それぞれが扱う彫刻、絵画、写真という異なるメディウムの混合による制作実験は3年以上に渡り断続的に展開されてきました。そこでは、作品の完成よりも、制作プロセスに重点を置くことで、「現象」「造形」「圧縮」という各作家がもつ表現形式を再検証し、更新することが目的とされています。今回、これまでに共同制作した作品、制作のプロセスで発生する様々なもの、またそこから個々の作家により新たに展開させた作品をフラッグスタジオで展示します。

—
会期:6月30日(土)~7月8日(日)
13:00-19:00 ※休館日:7/2(月)
料金:入場無料
会場:フラッグスタジオ

えのこじまだけで聴ける!
凸凹ラジオ (FM89.2)も放送中!

www.enokojima.info/radio



その他、卓球教室やヨガ教室など定期講座も開催中。くわしくはFacebookページ、ならびに、えのこじまの情報サイトwww.enokojima.infoをご確認ください。

